

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成30年度第2回美里町子ども・子育て支援事業計画策定等委員会

2 開催日時 平成31年3月26日（火）午後2時00分から午後3時12分

3 開催場所 近代文学館 2階ギャラリー

4 会議に出席した者

（1）委員

塩野悦子委員長、青木英治副委員長、大平敏雄、忽那香菜子、澤村美香子、伊藤努、大町龍一、佐々木由美子、佐藤直子、山村智子、千代窪司

（2）事務局

子ども家庭課 課長 今野正祐、課長補佐 須田政明、主事 伊藤智昭

（3）その他

株式会社ぎょうせい 担当者

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議事（1）第2期美里町子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査集計結果について

（2）小規模保育施設に係る意見について

（3）その他

会議 公開

6 非公開の理由

—

7 傍聴人の人数

0人

8 会議の資料

- ・第2期美里町子ども・子育て支援事業計画アンケート調査集計結果報告書
- ・家庭的保育事業等実施計画書

9 会議の概要

1. 開会

- 須田補佐 本日は、みなさまお忙しいところご参集いただきありがとうございます。初めに、本日の委員会には、今回のアンケート調査のお手伝いをいただいております業者の方にも、お一人参加いただいております。ただいまから平成30年度第2回美里町子ども・子育て支援事業計画策定等委員会を開催いたしたいと思っております。
- 本日は、委員11人中11人の出席をいただいております。美里町子ども・子育て支援事業計画策定等委員会条例第4条第2項の規定により、委員会の会議は委員の半数以上の出席が必要ですが、本日は定足数を満たしていることを報告いたします。初めに、塩野委員長から挨拶をいただきます。
- 塩野委員長 (あいさつ省略)
- 須田補佐 ありがとうございます。
- ここで、会議の次第にはございませんけれども、当委員会の会議運営について、委員の皆様にお諮りいただきたいと思いますが、委員長、よろしいでしょうか。
- 塩野委員長 はい。
- 須田補佐 「美里町附属機関等の会議の公開に関する規則」第15条「会議録作成」には、会議録を作成し、当該会議に出席した2人以上の附属機関等の委員の署名を得なければならないとあります。委員の署名につきましては、今回、忽那委員と千代窪委員のほうにお願いしたいと思っております。
- 議事録の公開についてであります。会議の議事録及び資料につきまして、後日、町のホームページに公表させていただくことをご了承願います。
- では、塩野委員長のほうに議事の進行のほうをよろしくお願いしたいと思っております。
- 塩野委員長 それでは早速、議事の1番目でございます。
- 第2期美里町子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査集計結果について、事務局のほうからご報告申し上げます。
- 須田補佐 ※別資料 「第2期美里町子ども・子育て支援事業計画アンケート調査集計結果報告書」に基づき説明

塩野委員長 それでは、ただいまの集計結果について、皆様から質問、感想などありましたらよろしくお願ひします。

皆様、お考えの間、一点。幼稚園の預かり保育のニーズが高いのですが、一番差の激しいグラフなのかなというふうに思うのですが、この点については、なかなか幼稚園側の、ニーズというのは、実際に依頼をしたわけではないということですか。ニーズとして聞いているということですか。ニーズがあつてお願ひしたけれど断られた、そういうわけではないということですか。8ページの上の表です。

須田補佐 29ページの下段の回答のところ、問18の5の4番、「利用したいが保育・教育の事業にあきがない」という回答が40人、こちらが待機児童になるかと、回答から推測できます。

塩野委員長 すると、この問18の保護者の利用状況と希望について、現在という方と、希望という方ということになります、比べてもいいものなのでしょうか。図のつくり方なのですが、下と分離して見るならわかりやすいのですが、一緒に並べると、誤解を招くような気がします。図の意味も、対象者が、利用している方と利用していない方ということになるわけですね。ですから、2つ並べるといふことがどのぐらい意味のあるものなのかなとちょっと思ひました。誤解を招くような図ではないかなと。別個に作図なさつたほうがいいのではないかなと思ひます。

青木副委員長 希望のところには利用している人も入つていますね。設問の問19のところ、30ページにありますけれど、現在利用している、利用していないに関わらずという問いになつていたので、多分利用している人で今後も継続して利用したいという希望も含まれているのではないですかね。プラスアルファで、今はしていないけれどもしたいという人がプラスになつていふことなのですかね。

塩野委員長 でも、やはり母数が、問18のほうは439名で、問19のほうは662名なので、整合性がちょっと見えないかなと。公表をするときに誤解を招くようなことになるので、検討していただければと思ひます。

須田補佐 集計した業者から補足をいたします。

俵ぎょうせい 問18からの関係で、幼稚園を利用している方が286名ということ。問19のほうでは、幼稚園を利用している・しないにかかわらず平日の教育・保育事業で定期的に利用したい希望を聞いているということで、こちらは全体。問19に関しては、問18の流れから、幼稚園の教育の無償化等の影響で、経済状況は変われば利用が変わるであろうかというギャップを見るための設問ということ。実際は幼稚園に流れてもい

いという方が問19でいうと幼稚園、1番だけでも79.3ということで、その実際に利用しているのとのギャップを見るとというようなことでしたけれども、少し精査が必要と思いましたので、読み間違いのないように図を整理したいと思います。

塩野委員長 そうですね。図の説明をよろしくお願いします。
そのほかありますでしょうか。

澤村委員 16ページの美里町の子育てのしやすさ・満足度、就学前の問34は、無回答が120というのはすごく多い数字だなと思うのですね。この無回答の意味というのが、反発というか、それで全部無回答なのか、回答しにくい欄というか、忘れやすい、回答し忘れそうなところにあったのか、120という数字はあまりにも大きいと思うのですが。

澤村委員 小学生のほうの無回答は13件で2.8%。就学前だと18.1%という。

塩野委員長 ちょっとこの、就学前は「満足」で小学生は「しやすい」とか、ちょっと尺度の表現が違うので比較が難しいと思うんです。

澤村委員 そうですね。質問の内容がわかりにくいのかもかもしれませんね。

塩野委員長 迷っているうちに次にいってしまうとか。

たとえば、前回の調査と比較してみるとか、そういうことはしていますか。

須田補佐 一部、さきほどご説明した中でも前回調査との差が大きいものについては、比較として入れている部分もございます。

塩野委員長 満足度に関しては、いつもこのような感じなのでしょうか。それとも今回特異的な現象が起きたのでしょうか。

須田補佐 前回の集計結果についても持ってきていないので、申し訳ございません。

塩野委員長 ここはちょっと、何か質問とかお問い合わせがあったときにお答えできるようにしてください。無回答がこれくらいでしたとしか、おっしゃることはできないとは思うのですが。一つ着目しておいたほうはいかなと思います。

須田補佐 はい。

塩野委員長 そのほかいかがでしょうか。

もしも次回、また同じようなアンケート調査をするときには、尺度の項目を同じような項目にするように、忘れないように確認をしていただければと思います。

澤村委員 設問を読んでみると未就学児のほうは難しいですね。小学校のほうは簡単な内容になっている。細かく聞きたいのかなとも思うのだけど、作った人が違うのかなと思うくらい言葉の使い方が違う。就学前の若いお母さんたちに対してのほうは、設問が難しいというか、多岐にわたると

いうのもありますけれども。答えやすい、答えづらいというものもあるのかもしれないですね。

青木副委員長 うちは両方アンケートが来て、うちの家内が書いたのですけれど、就学前のほうがすごく難解で、答えるのがすごく難しかったということは言っていて、詳しく聞かないとわからない部分があつて、詳しく書いているとは思うのですが、要望が多かったりとか、読むのがすごく難しかったりというのはあつたみたいですね。書きながら、難しいねと言いながら書いていたので、幼稚園のほうは。

澤村委員 難しく聞かれると、すごく悩むような気がするんですよね、答えるのに。
青木副委員長 最終的に何を聞かれているのか、よくわからなくなったというのはあつたみたいで。小学校のほうは確かに答えやすい。

澤村委員 答えやすいですよ。ぱっと見ても、文章も短いというのもありますし、言葉も何か優しい感じのものを使っていて。小学校のほうは結構答えやすい感じがします。未就学児のほうは文章が長いな。難しそうだなと思つたのですけれど。問33の枝番の設問がずっと続いた後にぽんと問34が出てきたときに逃すというか、もういいかなという感じになってしまうんだと思います。

須田補佐 よろしいでしょうか。

塩野委員長 はい。

須田補佐 今回の未就学のほうが難しいというのが、国の必須項目をベースにしておりますので、どうしても難しくなってしまうところがございます。今回、小学生のほうが、前回調査のときはしていなかった設問で、国のものをベースにしながらもある程度こちらの自由にできた設問が多く、国ベースではぼやってしまうと、こちらの就学前児童のようになってしまふのかなという気持ちもございました。

先ほどありました問34ですね。ほぼ全設問が終わった部分で、最後の自由記述の手前の一番下になって、場所的にもしかしたら終わったという感じだったのかもしれない。

塩野委員長 それは大いに考えられますね。もう書きたくないというのか、もう終わったみたいな安心し切って、次の自由記載も書くことが無いから閉じてしまうといった……。

今後のアンケートの構成であるとか、漏れがないようにするとか、文章の見やすさとか次回に改善すればいいのかなと。こんなふうの結果に反映されてしまうと、あまりよろしくないの。

澤村委員 質問内容で、未就学児の34番と小学生の17番は同じことを聞いているのでしょけれど、小学生のほうは「美里町は子育てがしやすい町だと思いますか」の質問の回答欄が「とてもしやすい」「しやすい」「あまり

しやすくない」というのに対して、未就学児は「お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度」に「満足」「やや満足」で回答する。記載されている場所と、回答する文章と内容をもう少し考えて作ってほしいと思います。

忽那委員 自分の地域って、どこまでを指すのかというのわからないですよね。本当に住んでいる地区の話なのか、町までいくのか。何か地域と言われるとすごく困りますよね。お住まいの町と言われるのだったら、美里町としてと、考える気がするけれども、地域って言われると、地区なのかなと悩むと思います。回答のしようがないというのものもあるのでは。

青木副委員長 そうなんですよね。それをちょっと変えることができるのであれば、美里町に変えるとか、そういうふうになれば……。

澤村委員 変えただけで違うかなと思うのですけれども。

青木副委員長 別なところなのですけれども、5ページの経済的な状況をどう感じるかで、就学前と小学生で比べてみると、苦しいと感じているトータルが変わらないというところですね。むしろ小学生に入ったときのほうが、ゆとりがある世帯が減っている、普通がふえてしまっているというところがありますけれども、これはお母さんが働く率がぐんと小学校で上がるにもかかわらず、ゆとりがあるのがふえない、苦しいのが改善されていないというのは、支出がふえるからなのでしょう。

単純に考えれば、共働きになれば収入はふえるわけで、苦しいは若干なりとも減るのかなというイメージがあるのですけれど、いろいろ小学校に上がると習い事の費用だとかそういう支出がふえて、結果的に苦しいままなのかという、その辺がちょっと気になるなというところがあります。逆に、お金がかかるようになったから共働きを始めたという世帯の方も、もしかしたら家を建てたりとか、そういうこともあるのかもしれないですけれども。何か原因がわかるような項目が下に一つあると、それをどう改善していったらいいのかなというのも見えてくると思います。

塩野委員長 先ほどの暮らしやすさも、暮らしやすくないとか、不満足のところ、理由欄を設けて自由記載、そういう人はなかなか自由記載を書かないかもしれないですけれども、教えてもらったほうがいいですよ。つまり、満足の方はアンケートをしても、アンケートそのものにも不満を持たないのだけれども、不満足の方は一体こんな答えて何になるのかって、改善されなければ意味がないので、改善するところを探すという意味では理由欄が重要になってくるのかなと。特にネガティブというか、少数意見も大事にしていかなければならないので。小学生になると、心はゆとりが出るけれども、お金にゆとりがないというようなことは先ほども出ましたけれども。

前年度、子どもだけで留守番をさせたというご意見もありましたが、増えたのかな。前は1件だったのですけれども、今回は、先ほど3件というお話があつて、この辺が気になるところかと思ひました。そういう意味で、小学生ですから、もう大丈夫かなという思ひもあるかもしれない。もしかしたら下にお子さんなんかがいるのかもしれないですし、そこら辺は少し、減っていない、ゼロにはなっていないというところでどういふふうに対策をしたらいいのかということになります。

青木副委員長

いいですか。13ページの子育てに対する気持ちのところなのですが、先ほど塩野先生のごあいさつでもありましたけれども、虐待に関するところで、これ結構大きいんじゃないかなと思うのですが、未就学前と小学生の、暮らし向きが苦しくない、苦しいを合わせると1割に近いです。虐待をしていると思うところがあるところの8.8%。小学生になると9.1%。トータルでそういうふう思っている保護者がいるということで、母数が就学前だと600位と考えたとしても、50件とかそれぐらいの方が「虐待しているのではないかと思うことがある」と答えている。その程度によると思ひますけれども、はたから見たらそうでもないものを、自分は虐待していると思ひ込んでしまう親御さんもあるでしょうし、逆に実際はかなり虐待に近いケースもあるんじゃないかなというのがあつて、パーセンテージを件数にすると結構な件数になっているんじゃないかなと思うので、この辺の理由というか、どういふ時に虐待していると思ひしてしまうのかとか、そういうのを書くだけでもSOSに繋がったりするのではないかなと思うので。もし次回やるときは理由欄を設けてもいいんじゃないかなと思ひます。

何かこう、町のほうにそういう相談件数みたいなのか、そういうのは来たりするんですかね。ちょっと虐待、自分は虐待してしまつているかもしれないみたいな。そういう相談窓口があるかどうかはあれなのですけれども。町のほうに直接来たりというのはそんなにないのでしょうか。

今野課長

相談はあります。それを、あと町としては、それがやはり虐待に当たるのかどうかというところを判断しながら、それを要保護児童とするかしないかの判断もしていきます。かなり重篤な事例については、町を越して児童相談所に直接というようなパターンもありますが。

ただ10%は確かに大きいですよ。

青木副委員長

そうですね。ちょっと母数も考えると結構な件数だなと。

今野課長

昨年、一昨年来、いろんな事件が報告されている中で、そういう事例に当てはめて、自分のケースはどうなんだろうというような疑問を持っている親御さんたちも出てきているのかなということは推測できると思ひますけれども。

塩野委員長

私は、これは決して特別ではなく、普通の家庭でもそういう思いをしている方は氷山の一角ではないかなと思います。だからこのアンケートからはそこまで読み取ることはできないですけども、こういうふうに分の中で虐待だと気づき始めたということはいいことだと。変な言い方ですけど。自分がやっていることが前はそんなに虐待とか意識せずに叩いたり怒鳴ったり。でも、言ってしまった瞬間に、あ、虐待かもしれないと思って丸をつける人もいるかもしれない。実際はしていないかもしれない。実際にしている人が丸をつけているというわけではなくて、虐待という認識は随分みんなに広まっているのかなというふうにも捉えたのですけれども。ただ、そういうふうにして歯止めをかけたというのが実際どれぐらいいらっしゃるのかと。そういう問いにはなっていないと思います。国の調査なので、これ以上細かい問い項目をつけるのは、回答者に負担となると思うのですけれども、町でどんなふうにもうちょっと細かい聞き方をどうするかとか、虐待しそうなきどうしますかとか、何かそういうふうな聞き方をするとか、もうちょっと状況が見えるようにしてほしいというのがあります。

問12で、子どものことについて地域の話し相手や相談相手がいない方も、少数ではあるのですけれども、相談相手がいないということも問題になってくるので。例えば、ここに丸をつけた人が、この町でこういうところにもう少し重点を置かれるようになった。子育て支援でこんなふうにするようになった。とか、そういう町でも対策につなげられるようなものがあると良いかなと思いました。アンケートの自由記載の最後のほう、61ページに、アンケート結果が反映されないと意味がないと書いてあるのですけれども、そういう皆さんが、美里町がすごく子育て支援に非常に活発に介入しようとしているという空気であるとか、そういうものを感じる事がすごく大事なのかなと。アンケートを国でやるからやりました。こんな結果でした。ということはもちろん大事なのですけれども、ぜひ皆さんで共有して、今後どう繋げていくかというのが大事なかなと思います。アンケートそのものも大事ですけども。

皆さん、すごい回収率で答えていただいていたのでありますが、大きく分けると、10%くらいの方は不満、どれくらいの方が全体的に不満なのかなという。あとは、すごく困窮している人たちに重点を充てて、そういう人たちが今度、ああ改善されたと思うようになるためには何をすれば良いのかということを考える材料として生かしていくことが必要なかなと思います。

それでは、そのような感じでもよろしいでしょうか。一旦、これで。

続きまして、議事の2番目です。小規模保育施設に係る意見についてお願いします。

須田補佐 ※別資料 「小規模保育施設に係る意見について」に基づき説明

塩野委員長 ありがとうございました。

この小規模保育施設おひさま保育園に関して、皆様から何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。

伊藤委員から何かご説明はありますか。

伊藤委員

何とかスタートラインに立てたという。手を挙げてから、長い時間がかかりましたが何とかやってこられたのですが、まだスタートということなので。やっぱり一番大変だったのは保育士の確保。施設園長も私が抜けて経験者を園長として招こうかと思っていたのですが、時間がない。どうしてもそこが難しかったというか。やはり民間施設なので、確約をもらえないと、例えば募集をしてだめなんじゃないかとか、結局まだ認可の保育園の証書があるのですかという、当然そういうものありませんので、果たしてそれを全面的に伝えて保育士を集めていいのかと悩んでいたら、10月、11月になって、いろいろ歩いたら平成32年度の募集ですかと言われる。もう1年遅いみたいな。10月から募集を開始するところはどこもないですよと言われて、ぎりぎり何とか間に合って6名揃ったのは、まず安心したというところですが、先ほども言いましたように、スタートラインに立ったということで、今から一生懸命頑張っていきたいと思います。

塩野委員長

これからスタート、これまで本当に苦労なさったと思いますけれども、これからどうぞよろしく願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。その他と次にございますが、何か委員のほうからありましたでしょうか。

須田補佐

議事のその他はございません

塩野委員長

それでは一旦、議事のほうは終わりにいたしますのでよろしく願いいたします。

須田補佐

ありがとうございました。

4のその他について。今回のアンケート調査の結果をもちまして、来年度、当初の予定は専門業者に委託をかけて策定する予定にしておりましたが、最終的には子ども家庭課の職員が自前でつくる計画となりましたので、その計画の案ができたところでまた委員会のほうを開かせていただきまして、その中で意見をいただいて、31年度中に32年度からの計画を策定していくスケジュールとなりますので、よろしく願いいた

します。

5番の次回の委員会の予定につきましても、案ができ次第という形になるかと思われますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

特には、あとよろしいようですので、本日の会議につきましては、これで終了させていただきたいと思ひます。

皆様、ご苦勞さまでございました。

年 月 日

会議録署名委員

委員 _____

委員 _____